

TRAVEL NOTES

2025



第11回南あわじ市
学生海外派遣事業報告書



ホームステイを経て。

CONTENTS

目次

- | | | | |
|---|---------|-------|------|
| 1 | 派遣団員名簿 | ・ ・ ・ | p.1 |
| 2 | 行程表 | ・ ・ ・ | p.2 |
| 3 | 派遣団員報告書 | ・ ・ ・ | p.3 |
| 4 | ギャラリー | ・ ・ ・ | p.38 |



MEMBERS

1 派遣団員名簿



No.	氏名	役職・学年	ホームステイ先
1	はまぐち まさよ 濱口 雅代	団長	Crystal Secret ファミリー
2	いしだ ももか 石田 桃佳	英語指導	Michele Huber ファミリー
3	あだち たつや 足立 達矢	事務局	Nancy Alber ファミリー
4	かわぞえ ここね 川添 心寧	高校2年生	Rebecca Kelly ファミリー
5	こはま あゆり 小濱 亜邑莉	高校2年生	Rebecca Kelly ファミリー
6	てらおか せな 寺岡 星奈	高校2年生	Nikki Hemmelgarn ファミリー
7	なかやま うた 中山 詩	高校2年生	Christine Hannewald ファミリー
8	まえだ おうら 前田 凰来	高校2年生	Alika Bridge ファミリー
9	なかの りくと 仲野 碧斗	高校1年生	Lukas Lejeune ファミリー
10	ふなせ こうた 船瀬 光太	高校1年生	Julie Fleck ファミリー
11	さかもと ここな 坂本 心菜	高校1年生	Julie Fleck ファミリー
12	ひろうち りお 廣内 梨央	高校1年生	Nikki Hemmelgarn ファミリー
13	まの ゆい 真野 結衣	高校1年生	Mischa Snow ファミリー
14	かしわざい ゆう 柏木 優羽	高校1年生	Mischa Snow ファミリー
15	かわかわ なずな 辛川 なずな	高校1年生	Christine Hannewald ファミリー
16	くるめ いちか 久留米 一花	中学3年生	Elizabeth Muether ファミリー
17	はまさき らん 濱崎 蘭	中学3年生	Amber Mustard ファミリー

SCHEDULE

2 行程表



日付	時間	内容
7/21 (月)	12:30	南あわじ市役所発 徳島空港から羽田を經由しニューヨークへ
7/22 (火)	終日	ニューヨーク観光 (自由の女神、グラウンド・ゼロ等)
7/23 (水)	9:00-15:00 18:30 22:00	ニューヨーク観光 (グランド・セントラル駅、ハイライン等) ニューヨーク発 セライナへ移動 ホストファミリーと対面
7/24 (木)	8:30-10:45 11:30-13:00 13:00-15:00 15:30-17:00	セライナ中学校・高等学校訪問 ボーリング 集会所でニュースポーツ (9Square) 酪農場訪問
7/25 (金)	9:00-10:45 11:45-13:00 13:30-15:00 15:30-16:30 20:30-22:30	図書館でアニメ鑑賞・言語交換 レイクフェスティバルエリア散策 アンフィカーライド体験 ヘーゼルナッツカフェ訪問、公園 レイクフェスティバル 打ち上げ花火鑑賞
7/26 (土)	9:00-17:30 17:30-20:00	ホストファミリーデー レイクフェスティバル パレード鑑賞
7/27 (日)	9:00-14:00 16:30-20:00	ホストファミリーとの自由時間 レストランでビンゴゲーム
7/28 (月)	9:00-11:30 14:00-15:30	ホストファミリー宅でクラフト体験 (コースター作製) パットパットゴルフ
7/29 (火)	9:00-11:45 13:15-16:00 18:00	セライナ市巡り (図書館、市役所、裁判所、消防署、姉妹都市提携記念樹、灯台) レイクパーティ (ボート、カヤック等) 湖畔にてお別れ会
7/30 (水)	4:00	セライナ発
7/31 (木)	21:00	南あわじ市役所着

REPORT

3 派遣團員報告書



【25年の時を経て】

【濱口 雅代】

ひょんなことからセライナへ25年ぶりに訪れる機会を得て、とてもわくわくしました。団長という立場で14名の学生を安全に笑顔で連れて行き、連れて帰るという責任を感じながら、再びセライナを訪れるという、私にとって大切な旅のひとつになりました。また、学生のみannaには今回の経験を最高のものにしてあげたい、という思いをもって出発しました。

ホームステイの前には長年の憧れ、ニューヨークにも立ち寄ることができ、刺激的な大都会を感じることができました。にぎやかで人が多いニューヨークと、緑が美しく自然豊かでおだやかなセライナの対比が印象的で、それぞれ



がありました。25年前は、翻訳アプリどころかスマホもなく、辞書を片手に過ごした記憶があります。今のようにスマホで簡単に写真を

とることもできず、目の前にある楽しいことに夢中になっていたように思います。出発までにアルバムを見返し、当時だからできた遊びであったり、過ごし方であったり、本当に楽しかった記憶がよみがえってきました。また、今回の渡航をきっかけに、一緒にセライナに行った友人と当時のことを振り返ることもでき、懐かしさと時代の変化にびっくりしました。

セライナに到着すると、あたたかいホストファミリーに迎えられました。大人になってからのホームステイは違う良さがありました。学生で



はできなかった、大人になった今だからこそできる、ホストとゆっくりお酒をのみながら、笑いながら過ごす時間は、日常の延長にあるようなあたたかで穏やかな時間でした。日本での忙しさから離れ、滞在中に

は娘さんやお孫さんたちと遊んだり、ホストの友人と一緒に食事をしたり、カードゲームをしたりと何か特別なことをするのはなく、ゆったりと心からリラックスして過ごすことができました。英語を話せない私ですが、つたない英語とジェスチャーを駆使し、時には翻訳アプリに頼りながらなんとかコミュニケーションをとりました。便利な世の中になったとつくづく感じながらも、やはりその土地の言語を自由に使えることの大切さと魅力を感じました。



そして、25年前のホストファミリーを探そうといろいろな人に尋ねましたが、残念ながら辿りつくことはできませんでした。しかし、いろいろな人と話をする中で、かつてホストファミリーをした人たちと出会ったり、過去の話を知ったり、長年にわたりこの国際交流が続いていることを改めて実感し、とても嬉しく思いました。たくさんの人とつながることができた派遣でした。SNSで簡単につながることができる今、今回得たご縁をこれからも大事にしてい

ます。

学生たちにとっても異文化を体験でき、英語でコミュニケーションをとり、家族の一員として過ごし、多くの人とつながる貴重な機会になったと思います。帰国時の機内で、偶然にも機長とお話をする機会もあり、旅の終わりにこうした出会いがあったことも、今回の派遣に彩を添えてくれました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者のみなさま、セライナであたたかく迎え入れてくださったGLIAのみなさま、笑顔で迎え入れてくださったSecret家のhappy coupleのCrystalとChirsに心から感謝申し上げます。また、楽しい時間を一緒に過ごしてくれた引率者のふたりと学生のみannaにも心から感謝し、学生たちが今後、この経験を糧にそれぞれの未来に向かって大きく自由に羽ばたくことを願っています。そして、誰かが再びセライナの地を訪れることを楽しみにしています。



【Learning and Growth】

【石田 桃佳】

この派遣を通して私が大切にしたいかったのは、生徒たちが「生きた英語でのやり取り」を実際に経験することでした。翻訳アプリに頼るのではなく、自分の声と表情、そして言葉で想いを伝えることの喜びを感じてほしい。その想いを胸に私もこの派遣事業に臨みました。

今回の派遣事業にあたり、英語指導として事前研修に携わる機会をいただきました。研修では、発音クリニック、ホームステイや現地交流で必要となる英会話を中心に指導し、生徒たちが自信をもってやりとりできるよう支援しました。生徒とともに出発を迎えるにあたり、私も大きなワクワクを感じ、英語を指導する楽しさについて改めて気づくことができました。

夢にまで見たアメリカ訪問の日がやってきました。最初の2日間はニューヨークでの滞在。自由の女神や、グランドセントラル駅、ブルックリン橋など、その大きさに圧倒されました。ドラマや映画で何度も目にしてきた場所に自分が立っている瞬間は、長年の夢が叶ったと感じ、まさに感無量でした。



特に心に残ったのはタイムズスクエア。ここは「世界の交差点」と呼ばれ、様々な国の人が集まるにぎやかな場所でした。大きなスクリーンから映像や音楽が流れ、まるで映画の中にいるようでした。周りを見ると、年齢も国も違う人たちが楽しそうに過ごしていて、言葉が通じなくても笑顔や仕草でつながれることを感じました。

その後、姉妹都市であるセライナ市での滞在が始まりました。自然豊かな街で、地元の人々も暖かく私たちを迎え入れてくれました。

水上カーに乗せてもらったり、ボートでグランドレイクを散策したり、日本では体験できないアクティビティを楽しみました。

また、滞在中にはグランドレイクフェスティバルが開催されており、パレードや花火大会も体験しました。こうした貴重な体験を通じ、街の文化や人々とのつながりや

支え合いを感じることができました。



そして、このプログラムのメインイベントでもあるホームステイ。生徒にとっても私にとっても、実りのある素敵な経験となりました。ホストファミリーとの一つ一つの出来事が、まるで宝物のように心に残っています。

コテージでは、普段の忙しい日常から離れて、ゆったりと過ごすことができました。ご近所の方々や店員さんたちとも自然にコミュニケーションをとる機会があり、リラックスした雰囲気の中で英語を使った会話を楽しみ、言葉の壁を越えた交流の喜びを実感しました。

また、ホストファーザーにバイクの後ろに乗せてもらい、風を感じながら地元の風景を楽しんだり、プールサイドでホストマザーとゆっくり過ごしながら、日米の文化や教育、経済の違いについて話し合う時間も持ちました。こうした日常の会話の中で、英語を通じて相手の考えや価値観を理解し合う大切さに改めて気づきました。

今回の派遣を通して、私は「学びと成長」を強く実感しました。リアルなコミュニケーションの楽しさ、文化の違いを理解することの大切さ、また、日常の中で現地の人々が使う自然な言い回しや、新しい表現に触れることができたのは大きな学びでした。

またセライナの人々や市長との交流を通じて、「英語は教科書の中の言葉ではなく、人と人を繋ぐ架け橋なのだ」と改めて感じました。

私は大学時代、海外留学を希望していましたが、ちょうどコロナ禍でその夢は叶いませんでした。だからこそ、今回の海外派遣は私にとって特別であり、ずっと心に残る体験となりました。

普段、生徒たちに「英語は世界への扉である」ということを伝えていますが、今回の派遣を通じて、その言葉を自分自身の体験として深めることができました。だからこそ、今後は貴重な体験を生徒に伝え、彼らが英語を楽しんで学ぶこと、英語を通じて世界へ羽ばたけるように導いていくことこそが私の使命だと感じています。

このような学びと成長を力に変え、生徒への指導に活かすとともに、今後は自らも国際交流に積極的に取り組んでいきます。



【かけがえのない時間】

【足立 達矢】

私は、南あわじ市国際交流協会の事務局として、本派遣事業の準備をさせていただいたり、また、引率者として派遣にも同行させていただくこととなりました。

至らぬ点も多々あったと思いますが、学生の皆さんが、少しでも実りある時間を過ごすことができるよう意識しながら準備を進めてまいりました。

個人的な話をさせていただきますと、私は、今年の3月までは他の部署で仕事をしており、異動により4月から国際交流事業に関することの担当となりました。異動して早々、先輩から「パスポート持っている？」と聞かれ、海外渡航の経験がない私は、少し困惑しながら「持っていません。」と答えたのを覚えています。また、引率者としての渡航と聞いて、ホームステイ先では、「ホテル生活かな？」と思ったのですが、引率者もホームステイをしなければいけないと聞いて、英語を話すことが全くできない私は、不安でいっぱいになりました。ただ、派遣に先立ち、セライナ市側で調整いただいている GLIA（グランドレイク国際交流協会）の代表の方とメールで連絡を取りながら準備を進めたり、説明会や研修会を

進めていく中で不安は徐々に楽しみへと変わっていきました。学生の皆さんも研修会の初回の方は、硬さがありましたが回を重ねていくうちに、徐々に打ち解けていき、研修会も楽しいと言ってくれる学生もいて安心しました。



派遣は、ニューヨーク観光を経て、その後セライナ市でホームステイを行うというものでした。初日のニューヨーク入りが1時間程度遅れたくらいで、その他は特に大きなトラブルもなく、何より病気や怪我もなく無事に帰国できたことが本当に良かったと思います。

ニューヨークでは、都市の規模感に終始圧倒されました。街の雰囲気や音、食事、香り、行きかう人々、看板など、どれを取っても、The アメリカを感じさせてくれる素晴らしいものでした。



ニューヨーク観光では、自由の女神や、グラウンド・ゼロなどの観光地を観光しました。ニューヨーク市とセライナ市は、大都会と大規模農業地帯、と街の雰囲気は大きく異なり、また待ちゆく人々もニューヨークでは白人、黒人、アジア人など多種多様な人種の方々がいましたが、セライナ市では、白人以外の人種はほとんど見かけることがありませんでした。同じアメリカでも対照的な一面があり、それぞれの良さを感じることができたと思います。

セライナ市では、セライナの方々が私たちを本当に温かく迎え入れてくださいました。ホストの方々が計画してくださった沢山のアクティビティを楽しみ、交流を深めることができたと思います。



どのアクティビティもとてもとても素晴らしい体験で、企画・準備してくださったホストの皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、アクティビティのほかに、ホストファミリーと過ごしたホストファミリーデーや夕食の時間などは、それぞれの団員にとってかけがえのない時間になったと思います。私が滞在したホストファミリーの家は、湖畔にあり、毎朝ホストマザーと一緒に、飼っているニワトリに餌をあげに行ったり、ホストファミリーと一緒に湖でカヤックを楽しんだり、とてもゆったりとした時間をホストファミリーと過ごすことができました。



今回、この派遣事業に関わってくださった方々に感謝を申し上げます。また、来年度は、姉妹都市提携 30 周年の記念すべき年となっています。これまで、セライナ市と南あわじ市の先人たちが築き繋いできた絆とこの素晴らしい交流事業を絶やさないためにも引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

【派遣して感じたこと】

【川添 心寧】

出発すると同時に緊張と派遣団としての責任を感じました。13時間という長い時間飛行機に乗りやっと着いたアメリカは、今までとは全く違う環境でより緊張したのをよく覚えています。アメリカで食べる初めのご飯は日本とは全く違う見た目やボリュームでびっくりしました。街並みも日本とはまったく違ってやっとアメリカに来たという実感が湧きました。



2日目になって、少しずつ慣れてきてアメリカの人ともコミュニケーションをとれるようになりました。初めての環境で言いたいことが伝わった嬉しさや楽しさは留学で

しか感じられないものだと思います。しかしホームステイとなるとつたえたいことが多くなったり、相手が言っていることを必死に読み取ろうとしたりより大変なことが増えました。しかしそれをふまえて完璧な文法、発音で話さないといけないというよりもどう相手に伝わってほしいか、どれだけわかりやすく伝えられるかを考え、簡単な単語を使ったりジェスチャーをしたりす



ることが大切だと感じました。みんなで学校を見に行ったり、ボーリングをしたりパレードを見たりたくさんの思い出ができました。そして日本に来てほしい南あわじ市について知ってほしいと思うようになりました。

ホストファミリーのレベッカさんは本当のお母さんのように接してくれて明日は何時に家を出るよ、や洗濯物ちゃんと出してね、

など日本にいと当たり前な言葉がアメリカで聞いているとより特別なものに聞こえました。

派遣団として留学をして本当に視野が広がったし、外国人の人たちに南あわじ市に来てもらいたい、知ってもらいたいと思うようになりました。アメリカはすごく自由で自分自身をさらけ出していて日本ではそういう文化は少ないので魅力的だと思いました。

そして一番は留学中に会った人たちと交流して価値観も広がったし、多様性を受け入れることの大切さを実感しました。ハプニングも沢山あったけどそれを乗り越える力もついたと思います。留学を通して、言語の壁以上に大切なのは「伝えたい」という気持ちだと気づきました。完璧な英語よりも、相手に伝える工夫や姿勢が心を動かすのだと実感しました。現地での交流を通して、自分の考え方や視野が大きく広がりました。

私は将来海外の人たちと関わる仕事につきたいとっていて今回の留学で異文化理解も深まったし、コミュニケーション力また困難を乗り越える力も高まったと思います。そして留学を通して学んだ柔軟な適応力や言葉の習慣の違いを乗り越えて築いたコミュニケーション力などの経験を将来の自分

に活かしていきたいです。

そしてホストファミリーやアメリカでお世話になった人たちとの思い出を忘れず将来の夢に活かせるようこれからもっと成長していきたいです。



【海外派遣事業報告書】

【小濱 亜邑莉】

私は、アメリカと日本の文化の違いについて知りたいと思いこの事業に参加しました。アメリカとの違いについてナイフ・フォークや浴槽に浸かる習慣がない事チップがあることなど多少の知識として知っていることはありましたが、それらを実際に体験することで違いを知ることができたらなと思っていました。



アメリカに行って生活をしてみて1番の大きな違いはチップだと思いました。私たちは今回レストランでチップを出す場面がありませんでしたがホテルのハウスキーピングの際にチップを置いて出ました。ホテルやレストラン、タクシーなどサービスを受けた際にチップを渡すということがわかりました。

そして次に大きな違いを感じたこととして気候の違いです。日本に比べ比較的湿度が

低く乾燥しているため汗をかきにくく夜は涼しいと感じることです。

汗をかきにくいことがアメリカ人がシャワーで済ませることが一般的である理由だとわかりました。



他に家の中も土足であることやシャワーを浴びるのが一般的なので浴槽がないところがあるとわかりました。

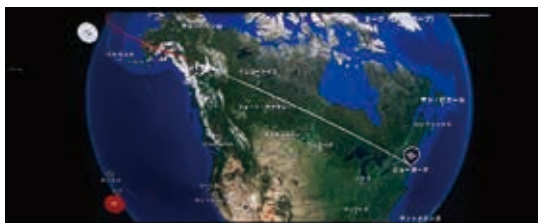
また水は硬水であるためうがいをする時に変な味がするので市販の水でうがいをしていました。

私がアメリカに行くことができたなら絶対に見たいと思っていた自由の女神を見に行くことができて本当によ



かったです。科学の授業で緑青の話の時に自由の女神は青銅でできているから緑青が発生し、緑色をしていると聞いたことがあったので見に行くことができこの緑色から最初は赤褐色であったことは想像できないと思いました。完成当時の自由の女神も見てみたいなと思いました。

アメリカに行くには長時間フライトが必須です。それが1番私にとってしんどかったです。今までは東京までの1時間ちょっとしか乗ったことがなく楽しい程度で乗っていましたが今回は初めての長時間フライトで飛行機内で食事や睡眠をして過ごすという体験をしました。寝て起きても30分ほどしか時間は進んでおらずとても長かったです。また上空では機内の気圧は低くなるので気圧に弱い私は頭が痛くなりました。他に機内では乾燥しているということがわかりました。コンタクトを外さないといけない事は言われていましたが起きると目と喉の乾燥がひどかったです。



次にホストファミリーという存在についてです。

最初行く前まではどんな人がまったくわ

からず知らない人の家で7日間も過ごすということに不安がありました。ですが行くと落ち着きがある家で大きな犬とホストマザーの2人だけでした。ホストマザーであるレベッカさんはとても優しく聞き取りやすいようにゆっくり丁寧に話してくれて常に笑顔で接してくれたおかげで不安でいた私を安心させてくれました。部屋の事やシャワーの事明日の起床時間など1つ1つ細かく説明してくれたので困ることはなかったです。朝から美味しい朝ごはんも作ってくれて私たちの本当の母のように扱ってくれたのがとても嬉しかったです。レベッカさんは素晴らしく心からいい人だと思いました。

レベッカさんと過ごした7日間はとっても短くあっという間でした。お別れの日にはたった7日間



だったけれど離れたくなくもう会えないと思うと涙が止まらなかったです。この1週間は毎日充実しており、今までにない貴重な体験となりました。ホストマザーがレベッカさんで幸せだったし出会えてよかったと思いました。

【セライナ派遣報告書】

【寺岡 星奈】

私は、はじめてアメリカにこの海外派遣を通していかせていただきました。行く前は、不安という気持ちより楽しみが勝っていました。でもだんだん日が近づくごとに英語でうまく話せるか、環境が違う中で体調を崩したりカルチャーショックになったりしないかなど不安な気持ちも増えていきました。

私が、ホームステイを経験して最も強く学んだことは、話そうとする意志や相手に伝えようと思う気持ちが大切だということです。最初は、しっかりとした文法や発音で話さないといけないという気持ちがありました。しかし、単語を並べていだけやジェスチャーをつけたりすることで正しい文法や発音を気にしなくても伝えようとするのが大切なんだとわかりました。伝えようとすることによって、ホストファミリーの方も理解しようとしてくれたり、そこからたくさんの単語を学ぶこともありました。しかし、それでもわからず翻訳機を使うこともたくさんありました。翻訳機を使うことでわからなかった単語がわかるようになり正しく理解できたり、翻訳機で学ぶことも多く感じました。けれどやっぱり翻訳機

なしに理解できたり話すことができると話すのがとても楽しく感じました。伝えようとする姿勢は、相手も理解しようとしてくれたりより理解を深められると感じました。また、日本とアメリカの文化の違いをたくさん感じました。例えば、食事の時です。日本では、1人1人にご飯を作ることが多いけれどアメリカではバイキング形式が多いと感じました。私のホストファミリーは、何種類かの料理が並び好きなものをお皿に入れていく形式でした。他にも、アメリカの家はとても遊び道具が多かったことです。卓球台があったり、バスケットゴールはほとんどの家がありました。そこでホストファミリー達と卓球をしたりアメリカのゲームを楽しんだりしました。遊んだ時が1番ホストファミリーとの距離を縮められた気がしました。



さらに、ホストファミリーや現地の人々は、1人1人の個性を尊重し合っている感じがしました。日本では、「みんなと同じ」ことが安心したりする中でアメリカではたくさんの人々がいる中でみんなとの違いは不安になることではないような雰囲気でした。そのような雰囲気があるからこそたくさんの人と話ることができたのだと思いました。そして現地の方々はフレンドリーですごく話しやすかったです。私も、そういう雰囲気を作れるように自分の意見を大切にしていきたいと強く思いました。



ホームステイ中は、やっぱり聞き取れないことが多くもっと英語ができたらと思ったりすることがよくありました。たくさん私のために話しかけてくれたりするけど、理解できず悔しさもありました。しかしそのおかげで、英語をもっと勉強しようという思いが強くなりました。学ぶ姿勢の大切さも実感したホームステイでした。

これらの経験から、なにごとにも挑戦し学ぶ姿勢を大切にすることが重要だと思いました。これらはホームステイだけでなく高校生活やこれからたくさん何事をするにも大切なことだと思いました。

またホームステイを経験し、たくさんの人と繋がることができ異文化交流ができたことにより自分の知らなかった部分を知ることができたりすることが学ぶことが多かったのです。そして、学ぶだけでなく、忘れられない思い出にもなりました。私にとってホームステイは自分の視野を広げることができた経験でしたし、自信に繋がりました。



この貴重な体験を日常生活の中で活かして、より自分の視野を広げられるように頑張っていきたいと思います。

【楽しかったアメリカ】

【中山 詩】

海外派遣に参加した中山詩です。ニューヨークでは三日間、セライナで約一週間過ごしました。初めての海外だったので長時間フライトはきつくて、少し体調が悪くなりました。入国審査であまりにも英語が聞き取れず不安しかありませんでした。でもニューヨークでは、ずっといきたかった場所でもあったし賑やかな都会に来れたのがまず嬉しかったです。私は都会が大好きなのでニューヨークの時間はすごく楽しめました。買い物したり自由の女神見たり思い出がたくさんできました。欲しかった服やキーホルダーも買えたから良かったです。バスで観光している時、眠たい中だったけどニューヨークの光や賑やかさで眠たいどころか写真を撮ったりして楽しんだのも今ではいい思い出だなと感じます。友達と色違いの服を買って写真を撮ったり、美味しいものを食べたりたくさん笑った三日間で南あわじ市ももっと都会になってほしいなって正直思うぐらい嬉しかったです。歯茎を痛めながらも食べたりんごは、美味しかったですし日本とアメリカの違いを感じながら朝を過ごしたことはこれからも忘れないと思います。コンセントが使えない事件もあ

ったけど、自分たちで考え行動することができました。セライナで一週間ホームステイをしました。ニューヨークが楽しすぎたのでずっとニューヨークで過ごしたいなという気持ちもあったり、楽しめるか不安でした。でもホストファミリーの方や関係者がすごく明るくてフレンドリーでたくさん話しかけてくれたおかげでとっても楽しい一週間でした。ニューヨークに比べると静かでリラックスしながらいろいろな体験ことができました。みんなでボーリングしたり、ご飯食べたり学校を案内してもらったおかげで日本とアメリカの文化の違いなどにも大きく気づくことができました。水上ボートや湖の中を車で走る乗り物に乗ったりどれも貴重な体験となりました。ホストファミリーデーでは、買い物に行ったのとお兄ちゃんのフリスビーの試合の応援に行きました。私はスポーツ観戦がとても好きなのですごく嬉しかったですし楽しかったです。買い物では服やお菓子のおすすめを教えられたりコミュニケーションもしっかりとりながら仲を深めていきました。ホストファミリーのカップルが仲良く、ノリも良く私まで幸せな気持ちになりました。お父さん

と兄弟で夜ご飯を作ってくれたり、家族の仲もよく紳士的でした。日本語にも興味を持ってくれて、ひらがなやカタカナを教えたなら発音してくれたりして日本語にも触れてくれたのが嬉しかったです。そうめんを作った時美味しそうに食べてくれる弟が愛おしかったです。この時には、不安など全くなくむしろ楽しさしかありませんでした。最後の日には服を買ってくれたり、お土産や手紙までくれてお別れするのが本当に悲しかったです。一週間では足りなくて、来年日本に行くねって言うてくれたから早く来てほしいし待ち遠しいです。ニューヨークでもセライナでも日本ではできない経験をたくさんすることができました。日本に帰っても SNS を通じてやりとりしたり、手紙を送ってくれたりとても大切にしてくれたホストファミリーには感謝しかありません。英語が通じない時や理解できない時もたくさんあったし翻訳機に頼ることもありました。だんだん翻訳機を使う回数が減ったのが私にとってすごく嬉しいことで、もっと英語を勉強して会話を楽しみたいなと心から感じました。次は英語の先生として、もう一回参加したいので今回英語力も上がったと思うのでこれからもっと英語の勉強をし、海外にも親しみを持ちたいです。今回たくさんの方にお世話になったので感謝

の気持ちを忘れず、わたしも将来貢献できるようにこれからの生活を送っていきたいです。たくさんありがとうございました。いい経験になりました。



【素敵な夏の memory】

【前田 鳳来】

海外派遣に参加させていただきました、前田鳳来です。私は、苦手である英語を少しでも出来るようになりたいという思いと、人見知りを無くし、外国人とコミュニケーションを取りたいという主に、2つの目的を持ってアメリカに行きました。アメリカに行くということにワクワクする気持ちがある反面、心配が大きかったです。13時間のフライトはとても長く厳しい戦いとなりました。機内食が出てきて、全て完食しました。限定のハーゲンダッツを食べることができました。とても美味しかったです。

最初の2日間は、New York 観光をしました。タイムズスクエアは、想像していたよりも遥かに人が多く、空気が悪かったことにびっくりしました。マンホールから煙が出ていたり、異様な臭いに驚きました。夜でも街は明るく、にぎやかでした。そして、自由の女神を見に行きました。フェリーに乗って行く途中の景色はDisneyのズートピアのような世界観でとても綺麗でした。島に着くと自由の女神が建っていました。たくさん写真を撮って、ショッピングもできたので楽しかったです。グランド・セントラル駅や、近代美術館なども観光できて

よかったです。近代美術館に入って、ショッピングはできたけれど、絵を見ることができなかったのが残念でした。New Yorkを満喫することができました。



その後セライナに行きました。ホームステイ先のホストファミリーがとても温かく迎えてくれました。まず初めに名前の漢字と由来に興味を持ってくれました。私のためにムースのケーキを買ってきてくれました。とても嬉しかったです。ホストマザーは、徳島県出身の方でお寺参りの話や、大谷焼きの話などたくさん話せて楽しかったです。朝食にバナナパンケーキを作ってくれました。また食べたいと思いました。ホストファーザーは、日本に旅行に行った時の話をたくさんしてくれて、知らなかつ

たことを知ることでもできました。セライナのことも紹介してくれて、毎年3月にはペリカンが来るそうです。見たいなと思いました。お兄ちゃんは、朝食にフレンチトーストを作ってくれました。とても美味しかったです。アリカちゃんとは、夕食と一緒にパスタを作ったり、ショッピングに行ったりしました。アンフィカーという水陸両用車に乗りました。楽しかったです。



ホストファミリーと散歩をして自然を感じることができて楽しかったです。帰りに、家族にブランケットや手紙をくれて、私にはクマのぬいぐるみをプレゼントとしてくれました。大切にしたいです。私は、英語が得意ではないけれど、ホストファミリーは、とても分かりやすいように話してくれたので、翻訳機を使わずに過ごしました。でも、あまり分からなかったもので、ホームステイで英語力を得たかというよりは、推測力、思考力、想像力を身につけて帰ってこれたと思います。もっと英語を話すことができれば良かったのにといい気持ちが強

くなったので、頑張って英語を勉強したいと思いました。セライナは、山がなく、周りはトウモロコシ畑で、海のように広大な湖があるのどかなところでした。レイクフェスティバルや地域のパレードが行われていました。たくさんの牛がいる農場があったり、小鹿、野うさぎ、リス、カモなど動物が身近にいて、自然豊かでした。朝起きたらうさぎ探しをするのが一つの楽しみでした。セライナの街並みは、とても素敵でした。ずっと住みたいと思いました。10日間というのは長いようで短かったです。幸せな時間を過ごすことができました。そしてとても大切な思い出となりました。このような貴重な経験は、なかなかすることができないので、感謝したいです。そして、この経験を糧にして様々なことに挑戦していきたいと思います。たくさんのお世話になった方々にも感謝を伝えたいです。今度は、日本に来て会えることを楽しみにしています。



【ホームステイ帰国報告書】

【仲野 碧斗】

7月21日から31日の11日間、ホームステイに行った。うちの3日間はニューヨークに、8日間はオハイオ州のセライナに滞在した。初めて海外に行ったので不安が大きかったが、それもいい経験になった。空港での入国審査はとても緊張した。

普段、自分が話している言語とは違う言語で話すのは、とても難しかったが会話が通じたときはとても嬉しかった。ニューヨークでは、有名な建造物やストリートを見て回れて、セライナではホストファミリーと買い物をしたり、ゲームや運動をしたりと、自分が知らなかったことなども知れたり、楽しかった。



この画像はブリーカーストリート

タイムズスクエアから南に2.8マイル、

約4.5キロメートルの位置にあり、音楽施設やコメディ劇場が有名な通りで、この通りの建物は1800年代に建てられた建設物が残っており歴史的な場所である。地震があまりない国であるため、当時のレンガ造りの外装が残っており、歴史を感じることができる。日本では地震が多く、壊れたりして当時の素材で残っている建物が少なく、そのままの物はとても興味深かった。



この画像はオキュラス



オキュラスにはショッピングモールや地下鉄である、ワールドトレードセンター駅がある。グランドゼロと呼ばれる建物の隣に建っており 9.11、アメリカ同時多発テロの際に衝突したワールドトレードセンターの跡地に建てられた。近くには慰霊碑があり、被害に遭われた人の名前が書かれていた。近くには、動物の像や絵画を描くなど楽しめる場所であった。

他にも自由の女神や近代美術館などたくさん場所を見て周った。観光して思っていたのは駐車場が少なく路肩に車を駐車したり、公園の数が多かったり、建物内の冷房の温度が平均的に低かったりと、日本との違いが多くあると感じた。

次にホストファミリーとの画像



淡路のいえは二階建てで縦につくられているがセライナの家は二階建てで横に大きくつくられていて地下もありとても広かった。家によってはプールがあったり、違う所土地を持っていたりと一般人でもかなり



土地を持っていてびっくりした。休日にはホストファミリーの持っている土地の池で釣りをした。初めて釣り道具を触ったので使い方が分からず困惑したが、教えてもらいながら引き釣ることができた。

最後に今回のホームステイで感じたのは学校で習った英単語や文法が会話する時に上手く使えずに相手に通じないことがあったり、聞き取れなかったことが多くあった。だから、できるだけ多く会話をして学んでいくのが大事だと思った。



【最高の思い出と共に】

【船瀬 光太】



まずニューヨークではちょっとしたアクシデントがいくつかありました。長時間フライトと緊張が入り混じりニューヨーク滞在中はあんまり食欲がわかずせっかくの美味しい料理を味わう事が出来ませんでした。それからホテルに着いて早々に手を切り血が止まらず仲野君に助けてもらいながら止血する事ができました。

こんな感じでの不安がよぎるスタートとなったのです。そんな中でもニューヨークの街は刺激的で夢の中にいるような感じで見るとの全てに興奮しました。『眠らない街 ニューヨーク』はエネルギッシュな雰囲気、多種多様な文化、世界の中心である事を実感した滞在でした。欲しかった大谷翔平選手のユニフォームを手に入れ少しテンションを上げ次はセライナです。

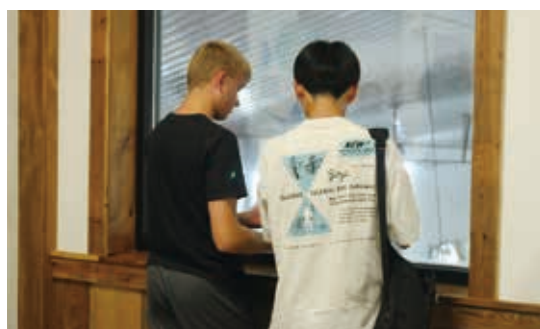
セライナはオハイオ州の小さな町ですが美しい自然と親切な人々が沢山いてとても

魅力ある穏やかな町でした。

セライナの観光地など案内してもらい沢山の思い出がある中でも僕はアメリカの消防に凄く興味と憧れがあったので見学中



に防火服を着せてもらった時は凄く嬉しかったです。



そしてホームステイ先の TJ と一緒に過ごした思い出も心に残っています。とても長い時間を共に過ごし英語が通じない時は翻訳アプリで会話をしたり色々な事を教えてくれました。もっと英語の勉強をして会話ができるようになりたいと思えたのも TJのおかげです。TJの家族や親戚にも本当にお世話になりました。ショッピングに連れて行ってもらったり、釣りにも連れて行っ

てもらいました。ショッピングで買った服は早速、帰りの飛行機で着て帰りました。



日本に帰国し、ニューヨークの写真たてを見る度アメリカでの楽しかった思い出がよみがえります。

最初に行くまであまり、メンバーに馴染む事ができず不安な出発となりましたがメンバーの皆さま



のおかげで一生の思い出となる素敵な11日間を過ごす事ができました。本当にありがとうございました。

僕はあまり自分から積極的にコミュニケーションを取る方ではないので最初セライナでの生活はちょっと苦労しましたが自ら発する事で全てが変わる事を学べ、自分の思いを発する事の大切さを学びました。

アメリカでの生活で少し戸惑った事は食事のボリュームが凄い事、ニューヨークのホテルの水が煙のような味がして口に入れ

る事ができず日本から持参した水が役に立ちました。色々な日本との違いを学べた事日本の良さを改めて感じた事、そして、異文化交流を通してお互いが通じ合えた喜び全てが僕の財産となりました。

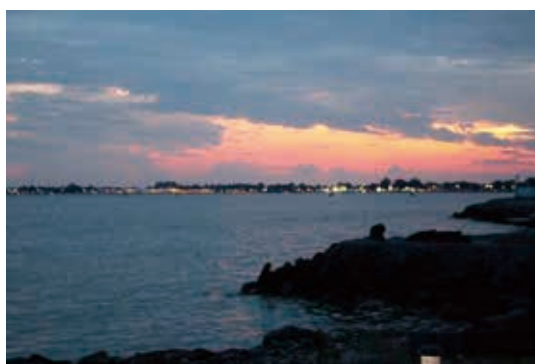
家族には準備から出発まで色々ありがとうございましたと伝えたいです。

そしてこの海外派遣に関わって下さった方々や引率者のおかげで安心してアメリカで過ごす事ができ、沢山の思い出と共に無事に帰国する事ができました。

本当にお世話になりありがとうございました。又来年セライナからの派遣団受け入れ時には恩返しのつもりで、『おもてなし』をしたいと思っています。

そして、もう一つは、将来、南あわじ市へ何かの形で恩返しをしたいと思います。

大切な『ふるさと南あわじ市』がいつまでも素敵な町でありますように……



to be continued

【アメリカでの11日間】

【坂本 心菜】

私は幼い頃から幾度となくホームステイの受け入れを体験してきました。言葉は通じなくてもとても楽しかったのですが、学校で英語を習い始めてからは、世界にはたくさんの国や言葉、文化があると知って、まずは英語をもっと勉強して、日本語で会話するぐらい流暢に、海外の人と英語で会話して国際交流をしたいと思いました。そのためには言葉はもちろん、彼らの考えや文化を知って、理解し合うことが大事だと考え、このプログラムに応募しました。

事前研修会で初めて一緒に行くメンバーと顔合わせをした時、同じ町や同じ学校にいるのに、ほとんどのメンバーと初めまして、とても緊張しましたが、回を追うごとに仲良くなれました。

アメリカは思った以上に遠く、お昼過ぎに市役所を出発して徳島空港から羽田空港、そしてニューヨークに着いた頃には真っ暗で、移動に約一日かかり、とても疲れました。

ニューヨークでは、9.11の記念碑を訪れました。テレビで何度も見た光景が目の前に広がり、言葉を失いました。犠牲になった方々の名前が刻まれた石碑に触れ、改めて平和の尊さを感じました。自由の女神像とリバティ島にも行きました。アメリカの象徴である自由の女神を目の当たりにし、その大きさと美しさに圧倒されました。移民の歴史を学び、多様な人々が共に生きる

アメリカの原点に触れた気がしました。ニューヨークは刺激的でエネルギーで溢れる町でした。高層ビルが立ち並び、様々な人種の人々が行き交う光景は、かっこいい！！と思いました。ニューヨークのホテルの朝食は、果物とパンと飲み物をそれぞれ一つずつ選んで、部屋で食べるスタイルで、他の食事もボリュームがあって、食べきれませんでした。

ニューヨークから飛行機でセライナ市へ。セライナ市では、夜遅くに着いたにも関わらず、たくさんの人々からの歓迎を受けました。私は船瀬くんとフレック家にお世話になりました。初めてホストファミリーに会った時はとても緊張しましたが、温かい笑顔で迎えてくれ、とても安心しました。その日は久しぶりにぐっすりと眠りにつきました。

ホストとは最初は距離感がうまく掴めず、気を使いすぎて、逆に余計気を使わせてしまって反省しました。でも途中からは自分から積極的に家族の一員として溶け込む努



力をしました。ジュリー、トニー、マディー、T Jは変わらず温かい笑顔で包んでくれました。食事や部屋も十分なおもてなしを受けました。

滞在中、たくさんのプログラムが用意されていました。訪れたハイスクールは、ジムのような体育館、用途別のたくさんの教室、ブルドッグのシンボルマークなど、日本との違いに驚きました。

大昔、手掘りで作られた広大なグランドレイクでは釣りや水上バイクを体験しました。この湖は内陸部に位置するセライナ市にとって、なくてはならない存在のようです。自然豊かで、アメリカの小さな町百選に選ばれるほど美しい町です。また、街のパレードにも参加しました。まるでお祭りのような賑やかな雰囲気に包まれ、アメリカの地域文化に触れることができました。

レストランや庭での BBQ ではみんなで集



まり、一緒に食事をしたり、ビンゴゲームをしたり、けん玉を披露したりなど、たくさんの人々と交流を深めることができ、その温かさに触れ、言葉にできないほどの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

別れの時、涙が止まりませんでした。



最初はみんなと本当に仲良くやっていけるのか不安でしたが、終わってみれば、かけがえのない思い出とたくさんの学びを得ることができました。英語は身振り手振りを交え、翻訳アプリを使ったりしながら何とかコミュニケーションを図ることができましたが、英語をもっと勉強したい！！勉強しなければ！！という気持ちになりました。

このプログラムを通して得た、交流することの素晴らしさを今後活かしていきたいと思いました。

国際交流協会の皆様、市役所の方々、事務局の方々、団長をはじめ一緒に行ったメンバー、セライナ市の方々、フレック家のみんな、全ての方々に感謝を申し上げます。楽しくて有意義な時間をありがとうございました。



【夢のような日々】

【廣内 梨央】

7月21日から7月31日の間アメリカへ行かせていただき、多くのことを学ばせてもらいました。姉2人が当派遣に参加させていただいて話をたくさん聞いていたので、この10日間はまるで現実ではないような素敵な日々でした。

ニューヨーク

初めの2日間ほどニューヨークを観光しました。ニューヨークは車通りが多く、クラクションが鳴り響いていたり、パトカーのサイレンがDJのようにビートを刻みながら鳴らされていたりしました。ニューヨークでは自由の女神、9・11の慰霊碑、9・11跡地に建てられたオキュラス、タイムズスクエア、美術館、ハイラインという線路



跡地を利用した場所へ行って来ました。実際に、行って見ることでわかったことはたくさんありました。テレビで見るより自由の女神はだいぶ大きかったし、タイムズ

スクエアは広くて、本当にさまざまな人がいました。

また、アメリカではYESとNOをはっきりさせることが大事だとニューヨーク歴の長いまさこさんに教えてもらいました。アメリカでは私的にみんなさっぱりしているように見え、アメリカに住むとおそらくささやかなことでクヨクヨしない屈強なメンタルが手に入ると思いました。

セライナ

飛行機で移動してセライナへ行くと海外ドラマで見るような黄色いスクールバスが迎えてくれました。空港からセライナ市までは少し遠かったので、ホストファミリーに会った時にはもう辺りが真っ暗で顔が見えず、ホストファミリーを探すのが難しかったです。ホームステイが始まったばかりは本当にホストファミリーがいていることを聞き取れず、自分の実力ショックを受けたし、何か質問されてもうまく答えることができず微妙な反応になってしまって申し訳なく思いました。これから約8日間で親しくなっていけるのか、ホストファミリーとうまくやっけて行けるのか、日本に帰って誇れるほどの英語能力はつけれるのかなど不安でいっぱいでした。しかし、最初

このこの悩みはただの杞憂でした。



ホストファミリーとお家でペニーのゲームなどをしたり、スモアを焼いたり遊園地に連れて行ってもらったり、コミュニケーションをとったりしていくうちにどんどん親しくなっていました。そうしているうちに最初は翻訳機なしではほぼわからなかったのですが、だんだんと英語を聞き取れるようになり、ある日には、自分でも驚くほどスラスラと思っていることを伝えられました。日本に帰っても、以前より音楽や海外ドラマの英語を聞き取れるようになっていました。また、私は幼いころから習字を習っていたのでそれを生かして、お土産に私が扇子に「愛」と書いたものと、ホストファミリーの前でTシャツとうちわに字を書きました。扇子はとても気に入ってもらえたとし、漢字と書道にも興味を持ってもらえました。自分の国の文化に興味を持ってもらえることがとても嬉しいことを知りました。他にも、アメリカで一番のカルチャーショックだったことがありました。それは、私のホストファミリーの兄弟は養子縁組だったということです。ホストマザーは

そのことをサラッと行ったので最初は翻訳機のミスかと思いました。しかし、調べてみるとアメリカでは養子縁組のことはオープンで、子供達の幸せが一番に考えられると書かれていました。日本では隠されていることが多いので、伏せることは全世界共通だと勝手に思っていました。素敵な考え方なので日本もそうになっていけたらと思いました。セライナでは本当に様々なことをさせてもらいました。色々なところを見学させてもらったり、水陸両用車やツインボートに乗せてもらったり、美味しいアメリカの食べ物を食べさせてもらったりしました。どれも日本でしたことのない素敵な体験でした。



感想

ニューヨークの雰囲気、アメリカの文化、考え方など、間接的に見たり聞いたり読んだりするだけでは分からないことがたくさんあり、本場で本物を見て良かったと思います。また、どこの国にも唯一無二の良さがあってその良さを尊重して尊敬し合うことで素敵な世界になると思いました。本当に良い体験をさせてもらいました。当派遣に関わってくださった方々に感謝しかないです。本当にありがとうございました。

【ニューヨーク、セライナでの 10 日間を通して】

【眞野 結衣】

今回、第 11 回南あわじ市学生国際交流事業で学生派遣団として参加させていただいた、眞野結衣です。

この派遣では、最初の 3 日間はニューヨークに滞在しました。長いフライトを終えて、1 日目は疲れた顔でご飯を食べてホテルに戻ってシャワーを浴びて寝る、で終わってしまいました。

2 日目はバスの窓からニューヨークの町並みを見て、ガイドさんの説明を聞いたり車窓から写真を撮ったりしました。自由の女神やグラウンドゼロなど、ニューヨークと言えば！な観光地をたくさん見に行きました。

2 日目と 3 日目は観光もしつつ、タイムズスクエアで買い物もしました。怪しげな路上パフォーマーがいたり、明らかに危ないであろう勧誘の人が居たので、少し怖かったです。店員さんの対応も日本とも全く違って、それも面白かったです。

残りの 7 日間は、オハイオ州セライナ市というところの現地の方の家でホームステイをしました。



ホストファミリーは温かく私たちを迎え入れてくれて、疲れていたり、不安を感じていた私たちにリラックスできる環境を与えてくれました。

セライナでは、現地の学校を見学したり、市役所や裁判所、消防署などの施設を見学したり、ホストファミリーと外食をしたり買い物をしたりと充実した7日間でした。

ホストファミリーデーには日本食を作って食べてもらい、食後には抹茶をたてて一緒に飲みました。一緒にゲームをしたり、スモアを食べたり、メールやインスタグラムを交換したり、たった7日間でしたが、とても仲良くなることができました。日本に帰るときには、空港までお見送りに来てくれたり、手紙をお互いに渡したりして、いよいよお別れとなったときにはハグをしたり、泣いている子もいました。

困ったことは正直たくさんありましたが、それ以上に貴重で、楽しい思い出がたくさんできました。これからについて考えるきっかけにもなったし、もっと海外の色々なところを見たいと思いました。来年は自分が迎え入れる側になるので、今回の経験を生かして、楽しい思い出を作ってもらえるようにしたいです。これからも、この経験

を無駄にせず日々邁進していきます。



【夢のような11日間】

【柏木 優羽】

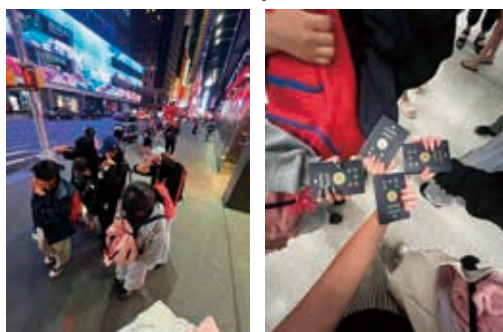
私は、この夏、南あわじ市の海外派遣事業でアメリカ合衆国を訪問しました。十日間の滞在のうち、最初の二日間はニューヨークを観光し、その後は姉妹都市であるセライナ市でホームステイを体験しました。

今回の派遣は語学中心ではなく、文化や歴史、生活習慣など人々との交流を通じて学ぶことを目的としたもので、私にとって忘れられない貴重な経験となりました。

ニューヨークでは、自由の女神やタイムズスクエアなど有名な観光地を訪れ、世界都市ならではの活気を肌で感じました。いっどこを見ても街自体が明るく、これがアメリカなのかと、とても圧倒されました。

また、ニューヨークではホテルでの宿泊であったため、友達と協力して動くことが多く、さらに絆も深まったと感じました。特に、朝ごはんがとても印象的でした。みんなですっと食べたかったアサイーを食べるためにどうしたら食べられるかを考えて行動したり、注文式の朝ごはん、翻訳機なしで自分が欲しいものを伝えたりと、どれも手に汗を握るような経験でしたが、とても貴重な経験となりました。しかし、ニ

ューヨークの街は、人の多さやあふれるごみの多さ、独特のにおいに少し疲れも感じることがありました。



この都会的な刺激を体験した後、セライナ市に着いたときの落ち着きは格別で、緑に囲まれた町の雰囲気やホストファミリーの温かさに安心感を覚えました。

セライナでの滞在中、さまざまな交流の機会がありました。日本から持参した食材で作った日本食や吹き戻しなどのおもちゃ、絵本などをとても喜んでもらうことができました。吹き戻しは、一生懸命吹く姿がとても微笑ましく、異文化に触れる瞬間を見ることができてとても新鮮な気持ちになりました。また、日本食作りではおにぎり、卵焼き、生姜焼きを振る舞い、ホストファミリーがお箸に挑戦してくれている姿を見ることができ、日本文化を伝えることができた喜びを実感しました。他にも、ホーム

ステイ先の家ではスーパーマリオなど万国共通のテレビゲームを一緒にしたことも思い出です。ゲームで負けたとき、勝ったときの反応が日本と一緒に共通点が見つかり、それもまた嬉しい気持ちになりました。

また、私の16歳の誕生日にはホストファミリーに手作りケーキとともにお祝いしてもらい、友人のホストファミリーも一緒に私を囲んで誕生日の歌を歌ってくれたことは、心に残る一生の思い出となりました。



そして、生活文化の違いにも驚かされました。ゲストルームとして案内された地下室にはウォーターベッドが用意されており、日本の布団文化との違いを実感しました。毎朝ホストマザーが用意してくれたワッフルやパンケーキの朝食も新鮮で、異国での家庭の味の違いを楽しむことができました。言語の面では翻訳機を使うこともありましたが、できるだけ単語で伝えるよう努め、完璧でなくても気持ちを込めれば通じることを学びました。また、セライナの方々はとてもフレンドリーで、話しかけやすく、

本当に初めて会ったのかと疑うほど、ホストファミリー以外の方とも仲良くさせていただけきとても嬉しかったです。さらに、ホストファミリーのミシャおすすめの美術館では宇宙をテーマにした展示を楽しみ、幻想的な空間に感動しました。日曜日には、教会で礼拝に参加し、日本の仏教との違いを肌で感じる貴重な体験もできました。



これらの経験を通して、異文化に触れる楽しさや、言葉や文化の違いを越えて交流できる喜びを実感しました。言語の面では通じ合うことが難しいところも多ありましたが、現地で使うカジュアルな言いまわしや翻訳機を使わないで話す楽しさを感じることができ、とても良い経験となりました。最後に、このセライナへの派遣事業を通しての出会いに感謝し、これからの生活にアメリカで身に染みて感じた臨機応変な対応力の大切さをこれからの生活にも活かして行きたいと思います。今後は、この経験を学校生活や地域での国際交流活動に活かし、周囲の人々に伝えていきたいと考えています。

【目標が見えたセライナ研修】

【辛川 なずな】

私がホームステイに行きたいと思った理由は大きく2つあります。

1つ目は、憧れていたアメリカの雰囲気を感じて、アメリカの人たちの生活に触れて、同じように過ごしてみたいからです。

ニューヨークでは、東京よりも背の高いビルばかりで、ビルの上を歩くのには、首が痛くなりました。他にもタクシーやスクールバスが黄色で、すごく目立っていました。映画の中に入ったみたいで、とてもワクワクしました。

3日目以降のセライナでは、思いがけず、ホストファミリーの家の猫や犬とたくさん遊ぶことができました。ホストファミリーはもちろんですが、人見知りがなく、犬と猫ですらアメリカ気質だなと思いました。他にも公園で遊ぶ機会もあって、アメリカの人たちとたくさん触れ合うことができました。

ホームステイに行きたいと思った理由の2つ目は英語の実力を上げるためです。10日過ごしてみて、特にスピーキング力とリスニング力が伸びたんじゃないかなと感じています。一緒に暮らしていた学生の女の

子が、よく会話の相槌で「Gotcha」と言っていました。私は初めて聞く言葉だったので、後でこっそり、ホストマザーに意味を尋ねると、「understand」と言う感じのスラングだと教えてくれました。学校では習わない新しい表現を覚えることができ嬉しかったので、試しにホストファミリーとの会話で使ってみたらすごくウケて、それ以来もっと積極的に使うようになりました。

また、ホストマザーは「ほら」という意味の「You know」を口癖のように使っていて、毎日10回以上は聞いたと思います。このようなちょっとした日常の口癖や言い回しを知ることができて、私にとって新しい発見ばかりでした。学校の教科書には出てこない、リアルな会話に触れることができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。

買い物に連れて行ってもらったり、家族のスポーツの試合の応援に連れて行ってもらったり、ホストファミリーにとっては普段の何気ない生活だったかもしれませんが、私にとっては、本当に特別な10日間になりました。友達や家族と10日間旅行に行ったのではなく、ホームステイで日常の生活に

入り込む経験ができたことで、より、アメリカを感じる事ができたと思います。今後は、アメリカに行くまで知らなかった文化や考え方を意識してニュースを見たり、英語の授業を受けたりしたいです。

そして、いろんな文化や考え方があることを理解して、身近な友人をはじめ、様々な国の人たちと関わっていきたくと強く感じました。そして将来、英語に関係する仕事に就きたいと考えています。気持ちを伝えることができなくてもどかしい気持ちになったことが心に残っているので、学校のALTの先生や、オンラインでの英会話レッスンなどを通して、自分の考えや気持ちをスムーズに伝えることができるようになるぞ、という目標ができました。

貴重な経験をさせてもらった全ての大人のみなさん、そして派遣員のみなさんに本当に感謝しています。ありがとうございました。



【Have a good day と言われて】

【久留米 一花】

私はこの夏休みに二週間ほどアメリカにホームステイをしてきました。初めての海外で、しかも一人で飛行機に乗ることはとても緊張しましたが、ホストファミリーや現地の人たちの温かさのおかげで、楽しくて貴重な経験をすることができました。ここでは私が体験したことや感じたことを報告したいと思います。

ホストファミリーはお父さん、お母さん、そして同じ年くらいの男の子と年上の女の子と男の子二人の六人家族でした。最初に会ったときは、英語がきちんと通じるか心配でしたが、笑顔で迎えてくれて安心しました。特にホストマザーは、私が分からない単語があると、身ぶり手ぶりをまじえてゆっくり説明してくれました。毎日一緒にごはんを食べながらアメリカのことや日本の生活について話すうちに、だんだん英語でも自分の考えを言えるようになっていきました。

アメリカでの生活の中でまず驚いたのは、食べ物の量の多さです。ハンバーガーやピザをよく食べましたが、日本のものより大きくて、一度に食べきれないくらいでした。

朝ごはんもシリアルやパンに牛乳やジュースをたっぷり飲むので、最初は胃が重たく感じました。けれども家族と一緒に食べていると、だんだんそれが楽しい時間になっていきました。

休日にはホストファミリーと一緒に観光にも行きました。大きなスーパーマーケットに行ったときは、日本では見たことのないような広さにびっくりしました。また、ホストブラザーのバンドクラブも観に行きました。会場全体が一体になって盛り上がる雰囲気はとても楽しかったです。ホストブラザーに音楽を教えてもらいながら見たので、さらに興味をもつことができました。



生活の中で感じたことは、アメリカでは

自分の意見をきちんと伝えることがとても大切にされているということです。ホストファミリーに「夕食は何が食べたい？」と聞かれたときに、「なんでもいい」と答えると、「一番好きなものを言ってね」と言われました。そのとき、相手に合わせるのではなく、自分の気持ちを正直に伝えることが相手への思いやりになるのだと気づきました。これは日本の生活でも役立つ考え方だと思います。



英語についてもたくさん学びました。最初うまく話せない自分がかっかりしましたが、毎日少しずつ単語を覚えて、身振り手振りを加えて伝えようとすると、相手は理解してくれました。大切なのは完璧な英語ではなく、「伝えたい」という気持ちだと分かりました。この体験を通して、これからも英語をもっと勉強して世界中の人と話

してみたいという気持ちが強くなりました。

今回のホームステイは私にとって大きな挑戦でしたが、行って本当によかったと思います。セライナで出会う人はみんな、別れ際に口々に「Have a good day」と語りかけてくれました。語りかけた相手に対する「素敵な一日を過ごしてね」という温かい心遣いが身にしみました。この短いホームステイ体験でしたが、アメリカの文化や考え方の違いを知ることができ、自分の世界が広がりました。これからもこの経験を忘れずに、学校生活や勉強にいかしていきたいです。そしていつかもう一度アメリカを訪れて、成長した自分をホストファミリーに見てもらいたいです。



【第 11 回南あわじ市学生等海外派遣事業報告書】

【濱崎 蘭】

7月21日～31日の約11日間、学生海外派遣団の一人としてアメリカのニューヨーク州とオハイオ州に滞在しました。はじめに三日間ほどニューヨークに滞在しました。ニューヨークは経済、文化、ファッションエンターテインメントの中心地として世界に大きな影響力を持つ「世界都市」といわれてるだけあって東京のビルで驚いているのが馬鹿らしく思えるほど高く、輝いていました。ニューヨークでは、「Thank you」と「Sorry」しか使うことがなく少し焦りました。でもそんなことを考えることもないくらい観光して買い物をしてとても充実した日々を送ることができました。ニューヨークにはテレビや映画、ドラマでみるような建物をたくさん訪れることができ写真もたくさん撮ったので自分の頭と写真という形で思い出として残すことができとてもうれしいです。多くの有名な観光地を訪れましたが、一つだけ心残りなことがあります。近代美術館の作品をみることができなかったことです。大人になって旅行でもう一度近代美術館に行く機会があったら買い物だけでなく中に入ってたくさんアート

作品を觀賞しようと思います。



ニューヨークでの滞在が終わりに近づくにつれ少しずつ不安と緊張が出てきて空港からバスに乗って集合場所に向かう際にはもう夜で疲れて眠たいはずなのに心臓がバクバクで一睡もできませんでした。いざ集合場所に到着してホストファミリーと対面した時には準備していた挨拶が一気に頭の中からとんでいって笑ってごまかすことしかできませんでした。そんな私をみかねてたくさん話しかけてくれたり家の紹介をしてくれて本当に優しく温かいホストファミリーでよかったと心の底からおもいました。私のホストファミリーは、すごく活発でいろいろな所に私を連れて行ってくれました。「予定にはないけどここへ一緒に行かない？」と誘ってくれることが多く、コロンバスのとても大きなショッピングモールの

“Polaris Fashion Place” という所や芸術的な作品が多くある “Otherworld” という美術館、そしてホストファミリーであるチャーリーとキャミオンが所属している劇団の公演などに連れて行ってきて家に帰った時はいつもへとへとでした。



でも毎日が充実していて車の中でも私の家族などの話をして、暇さえあればスマホゲームが大好きなチャーリーとブロックのゲームをしたり、Netflix をみたりおままごとなどをして楽しみました。私が日本から持ってきた知育菓子をチャーリー、キャミオン、そのいとこであるディアナカーと四人で、日本語で書かれた説明を英語やジェスチャーをつかってなんとか完成させました。

それからは、単語と単語をつなげたりジェスチャーを使えば会話ができることがわかり、できるだけ翻訳機を使わずに会話する事を意識してからスムーズに会話することができて少しは成長したと実感しました。

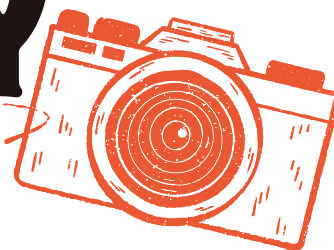


私がホームステイを通して一番実感したことは、アメリカは日本のように敬語や方言はないと思っていましたが実際には少しあって、人や住んでる地域によってことなっていました。ニューヨークとオハイオで変わるのは勿論のことでホストファミリーの中でも発音が少し変わっていたりして、多様な言い方を学ぶことができました。

この派遣事業に参加していなかったら学べなかったことがたくさんあり、学校の授業や教科書には載っていないことを学ぶことができ、自分のスキルアップの為に参加して本当に良かったと思います。

GALLERY

4 ギャラリー



全5回



- 第1回：6月 2日 (月)
- 第2回：6月19日 (木)
- 第3回：6月27日 (金)
- 第4回：7月10日 (木)
- 第5回：7月17日 (木)

パフォーマーの練習・ホームステイの心得etc.



参加者説明会



📍 出発

TRAVEL NOTES

7月21日 (月)

徳島空港から
羽田空港乗継ぎで
アメリカへ



出発式



保護者の皆様に見送られて
いざアメリカへ



7月21日 (月)

羽田空港から約13時間
遅延もありましたが、無事に
ニューヨークに到着！
大迫力のタイムズスクエアに
圧倒されました！



7月22日 (火)

世界遺産
自由の女神と
記念撮影





7月23日 (水)

NY市内観光



7月23日 (水)

セライナ市到着！
ホストファミリーの歓迎を
受けてホームステイの始まりです！



7月24日 (木)

セライナ2日目
セライナの中学校と
高等学校を訪問



ボーリングとランチを
楽しみ、そのあとは、
集会所でニュースポ
ーツなどを楽しみました



搾乳工場見学





7月25日 (金)

セライナ3日目
図書館でアニメ鑑賞、
フェルティバルエリア
散策、アンフィカーラ
イド、ヘーゼルナッツ
カフェ、花火パーティ



7月26日 (土)

セライナ4日目
ホストファミリーデー
レイクパレード



7月27日 (日)

セライナ5日目
午前は各家庭で過ごし、
昼からはビンゴゲーム



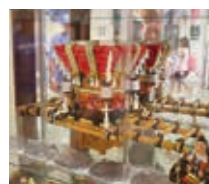
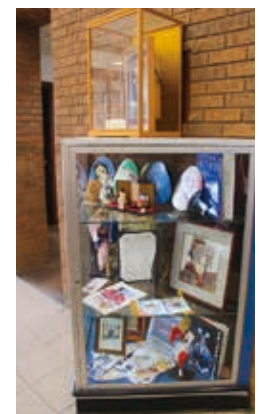
7月28日 (月)

セライナ6日目
午前はクラフト体験、ランチの後パットパットゴルフを楽しみました。



7月29日 (火)

セライナ7日目 (最終日)
市内の図書館や消防署、教会を訪問した後はさよならパーティ





📍 帰国

TRAVEL NOTES

7月31日 (木)

セライナを出てから約28時間を掛けて南あわじ市に帰ってきました。本当にお疲れ様でした！

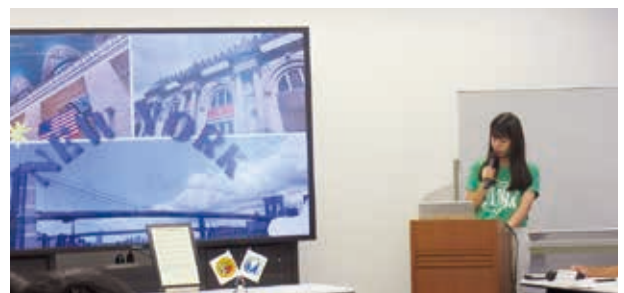


📍 帰国報告会

TRAVEL NOTES

8月21日 (木)

派遣団員17名全員から市長方へ帰国報告を行いました。





濱口 雅代



石田 桃佳



川添 心寧



小濱 亜邑莉



寺岡 星奈



中山 詩



前田 凰来



仲野 碧斗



船瀬 光太



坂本 心菜



廣内 梨央



眞野 結衣



柏木 優羽



辛川 なずな



久留米 一花



濱崎 蘭



足立 達矢



第11回南あわじ市学生海外派遣団
みなさまのこれからの活躍を期待しています！



TRAVEL NOTES

TAKE A BREAK, MAKE A STORY.



セライナ・南あわじ

SUMMER SPECIAL

DATE

2025.07.21 (MON) - 07.31 (THU)



CELINA & MINAMIWAJJI
